お兄さんの通帳

～択捉島出身の上松 健吾さん～

上松健吾さんは、択捉島留別村の年萌で五男として生まれました。きょうだいは健吾さん含め十二人おり健吾さんは九番目でした。家業はタラ漁をしており、春にはノリを採っていました。日本水産の捕鯨会社でも働いており、春から秋にかけては鯨の臓物を買い取り肥料として加工し、十月ぐらいに加工の仕事が終わるとまた漁に戻っていたそうです。

ソ連軍侵攻後は、昭和二十二年八月の強制引き揚げまでの約二年間ロシア人と一緒の生活。樺太経由の引き揚げ後、浜中町に住んでいたおじさん宅に身を寄せましたが、豊かだった島の生活に比べて、生活は大変苦しかったとのことです。

この通帳は、健吾さんのお兄さんで長男の定一さんが平成二十五年に亡くなられた際、遺品を整理していたときに出てきたものです。確認するとお兄さんで四男の信三さんの通帳で、昭和二十年三月に島の郵便局で記帳されており、終戦時まで島にあったものと思われます。おそらく引き揚げ時にお父さんが持ち出したのではないかと健吾さんは考えています。

お兄さんの信三さんは昭和十七年頃に志願兵として海軍に入りました。生きて帰ってくることはできましたが、病気になってしまい音更の病院に入院していたため、健吾さん達よりも先に本道に戻っていました。

この通帳は、志願兵として海軍に入った信三さんを心配したお父さんが信三さんのために用意していたものではないかとのこと。

また、遺品の中には通帳の他に旧紙幣などを整理した冊子もありお兄さんの定一さんは昔の物をとても大切にされていたことが窺われます。